



復活徹夜祭 (マタイ 28:1-10)

暗闇を打ち破られた主を、夜を昼にして祝いましょう

主のご復活、おめでとうございます。今年の復活のメッセージとして、「確かに、あなたがたに伝えました」という天使の言葉を選びたいと思います。

イエスが埋葬された墓のわきに現れた天使は、婦人たちに弟子たちへの伝言を残しました。「急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あなた方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」 (28・7)

「確かに、あなたがたに伝えました。」この言葉から、2つのことを拾いたいと思います。1つは、天使の言葉の向こうには、さらにそれを伝えるように命じた神がおられるということです。神から託された言葉なので、「伝えました」という言い方になりました。

このことは、次の反応を引き出します。つまり、出来事の向こうにおられる神の働きを信じるかどうか、ということです。今目にしている出来事の向こうに、神が働いておられると直感した人には、次の段階が用意されています。しかし、神の働きを信じることができなければ、その人はもはやさらに踏み込んだ神との関わりには招かれないのです。

イエスの墓のそばで、主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座りました。この様子を墓の番人として命じられた番兵たちと、墓を見に来た婦人たちの両方が目撃しました。ところが番兵たちは、目の前で起こっている驚きの出来事の向こうに神が働いておられると、信じることができなかつたのです。彼らは目の前の出来事に恐れをなし、死人のようになってしまいました。

婦人たちは、幸いに目の前の出来事だけに振り回されずに、その向こうに神の働きを見たので、天使の言葉を信じることができました。天使の言葉を信じた彼女たちは、同じ天使の言葉で次の段階に進みます。

「確かに、あなたがたに伝えました」天使の言葉はもう1つ、婦人たちに行動を起こすよう期待しています。行動を起こして、イエスの復活の証人になること。天使の言葉を信じた人が行動を起こすことで、さらに踏み込んだ神との関わりが用意されます。

「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って」(28・8) 行きました。すると間もなく、その行く手にイエスが立っていて、「おはよう」と言われたのです。天使の言葉を信じ、行動を起こした彼女たちは、もはや叶わないと思っていたイエスとの再会を果たしました。しかも、復活したイエスです。

墓に眠っているイエスしか想像していなかった彼女たちには、大きな恵みとなりました。死の暗闇に置かれていたイエスは、今暗闇を打ち破り、この世の光として婦人たちの前に現れます。イエスはご自分弟子の暗闇を打ち払われますが、婦人たちの心にあった暗闇も取り去り、婦

人たちを解放してくださったのです。イエスの復活は、死の暗闇からの解放です。イエスご自身のためだけではなく、出来事の向こうにある神の働きを信じた婦人たちの心も、暗闇から解放してくださいました。

婦人たちが体験したことは、復活を信じるすべての人も体験可能な出来事です。わたしたちは復活徹夜祭の光の祭儀で暗闇から光への「過越し」を目撃しました。この祭儀の向こうに、イエスを復活させた神の働きがあると信じました。

さらにわたしたちがこの驚くべきわざを告げ知らせる証人となるなら、証しするたびに、復活したイエスに出会うことができるのです。人間の死は、イエスの復活に飲み込まれた。イエスが暗闇を打ち破り、まことの光をもたらしてくださったと証言するなら、そこにイエスは現れてくださるのです。

最後に、行動を起こす人、復活の証人になるために、1つのことを付け加えたいと思います。今日のミサは、徹夜祭と呼ばれます。夜を徹して祝えと呼びかけています。文字通りに寝ないで祝うことも含まれていると思いますが、わたしたちにとっての「夜の部分」「眠っている部分」を見直すことも可能だと思います。

わたしたちの活動している時間の中で、自分がイエスの復活を信じるキリスト者であると人々に証しする時間はどれくらいあるのでしょうか。全くないとしたら、わたしたちは復活の承認としてずっと眠っているのに等しいのではないのでしょうか。

その、「眠っている時間」「夜に等しい時間」を、「起きている時間」「証しする時間」に変えなさいと、復活徹夜祭は呼びかけているのだと思います。もし、これまでの数十年が、復活したイエスを証しする時間となつてなかったとしたら、これから、夜を昼に変えて、イエスは復活し、わたしたちに復活の希望を与えてくださったと、証言したいと思います。

「イエスの復活を証言する人」は、自分の生活の一部を充てる人と、自分の生活のすべてを充てる人がいます。多くの方は、生活のある部分を用いて、イエスの復活と、自分自身も復活の希望を持っていることを証しします。

一方で、生活のすべてを充てて、イエスの復活の証人になってくれる人を、いつも求めておられます。イエスが復活し、イエスにかけた希望がわたしの持ち物のすべてですと言えるような人を探しておられます。もし、「自分も、イエスにかけた希望だけを持ち物にして生きていきたい」と願う人がいるなら、何かの行動を起こしてほしいと思います。

復活徹夜祭、夜を昼に変えて祝い、証しを伴わなかった生き方を証しをしながら生きる生き方に変えるまたとない機会です。行動を起こし、復活の証人になろうとする人のそばに、復活の主は必ずいてくださいます。一人ひとり、「確かに、あなたがたに伝えました」との天使の言葉を自分のこととして受け止めましょう。一歩前に入る勇気を、今日のミサの中で願いましょう。